



日本ユネスコ
エコパーク
ネットワーク
Japanese
Biosphere Reserves
Network



白山ユネスコエコパーク
Mount Hakusan Biosphere Reserve



2019年11月15日
白山ユネスコエコパーク協議会
公益財団法人イオン環境財団

11月23日(土)・24日(日)、イオン御経塚店で 「第1回 白山ユネスコエコパークフェア」を開催

イオン環境財団は、日本ユネスコエコパークネットワークと連携協定を締結しています。

白山ユネスコエコパーク協議会(会長 山田 憲昭 石川県白山市長)と公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田 卓也 イオン株式会社名誉会長相談役 以下当財団)は、11月23日(土)・24日(日)に、イオン御経塚店(石川県野々市市)にて「第1回白山ユネスコエコパークフェア」を開催します。

当財団は、2017年に日本各地のユネスコエコパークが組織する、日本ユネスコエコパークネットワークと、国内初となる連携協定を締結しています。同協定は“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和を目指し、日本のユネスコエコパークにおける保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援という3つの分野に関して連携して取り組むものです。

白山ユネスコエコパークは、百名山の一つである白山を中心に、4つの県と7つの市村にまたがる広大な森林地帯に位置しています。当フェアでは、ユネスコエコパークの理念やその魅力をご紹介するとともに、高山植物の宝庫であり、多様な動植物を育む広大なブナ林を有する白山の豊かな自然と人々との関わりについてもわかりやすくお伝えします。

【白山ユネスコエコパークフェア】

日時：11月23日(土)・24日(日)

場所：イオン御経塚店 1階 南エントランス広場(石川県野々市市御経塚2-91)

主催：白山ユネスコエコパーク協議会
公益財団法人イオン環境財団

内容：開会セレモニー、山の日アンバサダー桜花さんによるトークショー、パネル展示、ご当地キャラクターが参加するステージイベント、ワークショップ、白山ユネスコエコパークの特産品販売などを予定しています。

【開会セレモニー】

日時：11月23日(土) 14:00~15:00

場所：イオン御経塚店 1階 南エントランス広場

出席者：白山ユネスコエコパーク協議会 会長 石川県白山市長 山田 憲昭 様
イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー 北陸事業部長 大泉 拓史

※セレモニーでは、イオン御経塚店を拠点に活動する「イオン チアーズクラブ※」の子どもたちが、昨年1年間の活動をまとめた壁新聞の発表会を行います。

※イオン チアーズクラブ：公益財団法人イオンワンパーセントクラブの支援により、店舗ごとにクラブを組織し小・中学生が環境に関する学習や体験を通じて、考える力や社会的なマナー、ルールを身に付ける場を提供しています。全国で約450クラブ、約7,300人の子どもたちが店舗の従業員のサポートのもとで活動しています。

ご参考

【ユネスコエコパークについて】

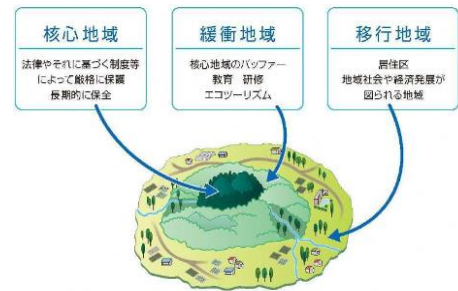
ユネスコエコパーク（生物圏保存地域、BR：Biosphere Reserves^{※1}）は、1976年にユネスコが開始しました。世界自然遺産が手つかずの自然を守る事を原則とする一方、ユネスコエコパークは、“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和（自然と人間社会の共生）に重点を置いています。認定地域数は、2019年6月現在、124カ国701地域で、うち国内は10地域^{※2}です。

自然と人間社会の共生を目指すユネスコエコパークには、3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）があります。そしてその機能を果たすために3つの地域（核心地域、緩衝地域、移行地域）が設けられています。

核心地域では、厳格に自然が保護され、核心地域保護のための緩衝地域では、教育・研修・エコツーリズム等が行われています。移行地域は人が生活し、自然と調和した持続可能な発展を実現する地域であり、環境を守りながら循環型で持続可能な地域づくりが行われています。

※1日本ではより親しみをもってもらうため、ユネスコエコパークと呼んでいます。

※2「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」、「屋久島・口永良部島」、「綾」、「只見」、「南アルプス」、「みなかみ」、「祖母・傾・大崩」、「甲武信」（2019年10月時点）



3つの地域（ゾーニング）

出典：日本ユネスコ国内委員会

日本のユネスコエコパーク



資料提供：日本 MAB 計画委員会

【日本ユネスコエコパークネットワークについて】

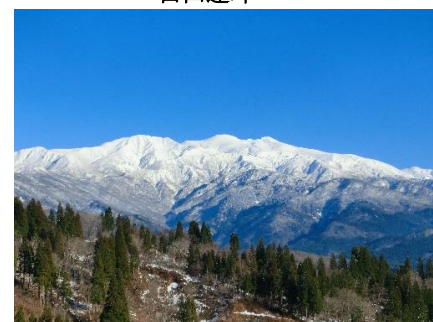
日本国内におけるユネスコエコパークの地域間連携を促進し、一つの地域では対処できない課題への対応、社会への働きかけなどを行い、ユネスコエコパークの理念に基づいた人間と生物圏とのより良い関係を築いていくことを趣旨とし、ユネスコエコパーク単位が会員として組織しているものです。

【白山ユネスコエコパークについて】

白山ユネスコエコパークは、1980年に日本で最初のユネスコエコパークの1つとして登録され、その後2016年に移行地域を新設する拡張登録がされました。北緯約36度・東経約137度、日本列島のおおむね中央に位置しており、標高2,702mの白山を中心にエリアを設定しています。山頂周辺の高山帯や亜高山帯を核心地域に、それを取り囲む広大なブナ林を緩衝地域に設定しており、これらは白山国立公園や白山森林生態系保護地域などとして保護されています。

また、その周りの山村を移行地域に設定しており、全体で人口は約1万7千人、面積は199,329haです。エリアは富山県南砺市、石川県白山市、福井県大野市・勝山市、岐阜県高山市・郡上市・白川村の4つの県と7つの市村にまたがっています。

白山連峰



写真提供：白山ユネスコエコパーク協議会

■白山ユネスコエコパークの特徴

白山ユネスコエコパークは、日本最西端の高山帯を有し、また世界でも有数の豪雪地帯です。「花の名山」と謳われるように、山頂部は高山植物の宝庫となっているほか、山麓には広大なブナ林が広がり、その森の恵みを楽しんで山村の生活や文化が育まれてきました。4つの水系の源となっているほか、人々の信仰を集めてきた山でもあります。こうした白山の特色は、地域の人々が大切に守り、活かし続けてきました。

ご紹介

【公益財団法人イオン環境財団の活動について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、様々な活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,193万本（2019年2月末時点）を超えています。

（ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

■植樹事業

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることを目的として、日本はもとよりアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2019年度国内では、北海道南富良野町、宮城県石巻市、宮崎県綾町、千葉県山武市九十九里浜にて、海外では中国武漢、インドネシアジャカルタ、マレーシア ビドーにて植樹活動を実施しました。



第1回 北海道 南富良野町植樹



第2回 インドネシア ジャカルタ植樹

■助成事業

[環境活動助成]

1991年より28年間、豊かな自然環境を次代へ引き継ぐため、持続可能な社会を目指し、世界各地で活動している団体に対し助成を行っています。累計では2,948団体へ総額26億8,289万円の助成を行っております。助成対象となる活動分野は時代の変化に即応し、第28回募集からは次世代育成のための「自然環境教育」を新たな分野として追加しました。

■顕彰事業

[生物多様性アワード]

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。

本年度は、9月26日（木）に、第6回「生物多様性日本アワード（国内賞）」の授賞式を行い、グランプリには、株式会社コクヨ工業滋賀が選ばれました。



第6回「生物多様性日本アワード」授賞式
（国際連合大学）

■環境教育事業

[アジア学生交流環境フォーラム]

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。

2019年度は、「持続可能な平和のため」をテーマに、王立ブノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）、ヤンゴン経済大学（ミャンマー）、フィリピン大学（フィリピン）の10ヶ国、計80名の学生が参加し、「持続可能な平和構築」をテーマに、8月2日～6日の期間、カンボジアのブノンペンとシェムリアップで、開催しました。



第8回ASEP開講式（王立ブノンペン大学）

[太陽光発電システム寄贈]

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育を目的に、2009年から国内外の小中学校へ太陽光発電システムの寄贈を行っています。これまでに、日本・中国・マレーシア・ベトナムの4カ国で、計48校に寄贈しました。昨年並びに本年は、香港の小中学校計6校に寄贈しました。



2019年 太陽光発電システム寄贈
（東華三院姚達之記念小学）

■連携事業

[一般財団法人リモート・センシング技術センターとの連携協定]

2019年7月23日、一般財団法人リモート・センシング技術センター（理事長 池田 要）と当財団とは、持続可能な地域づくりの実現に向け、リモートセンシング技術の活用に関し連携協定を締結しました。このたびの協定は、当財団が地域の皆さまなどのステークホルダーとともに取り組む「イオンの森づくり」に、リモートセンシング技術を活用する事で、持続可能な地域づくりを目指して取り組むものです。

具体的には、リモートセンシング技術による地球規模のグローバルな視点で得た過去及び現在の地表面の情報により、森や地域の状態を効果的に調べ、植樹候補地の選定に必要な情報や、植樹前後の森林の状態を客観的に把握します。これまでイオン環境財団が実施してきた植樹等の森林管理活動を、より効果的に行うことが可能となります。

また教育の場においては、リモートセンシング技術を活用した衛星画像データにより、森林減少、地球温暖化、大気汚染などさまざまな環境問題を把握、理解し、地域の持続的発展のための解決案を考える環境教育も実施いたします。両者は、本協定を機に、次代を担う子どもたちに持続可能な地域と豊かな自然を引き継ぐため、連携して取り組んでまいります。

[イオン未来の地球フォーラム]

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行策を議論するフォーラム。講演と対話型パネルディスカッションにより理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラム」を開催しています。

第4回となる今年度は「海の環境と資源を守る」をテーマに、2020年2月1日（土）に東京大学安田講堂にて開催致します。



第3回イオン未来の地球フォーラム
（東京大学安田講堂）